

専門研修プログラム名	富山大学附属病院連携施設 精神科	専門研修プログラム
基幹施設名	国立大学法人 富山大学附属病院	
プログラム統括責任者	高橋努	

専門研修プログラムの概要	本プログラムでは、地域における考えうるリソースを集結して専攻医の指導体制を構築する。専門研修基幹施設となる富山大学附属病院神経精神科は 43 床を有する総合病院精神科であり、難治例や身体合併症例を含む多様な精神科疾患を対象に幅広い臨床を行っている。また救急への対応は医療の出発点であるとの考えから、大学病院の精神科としては全国的にも珍しく、県の精神科救急輪番にも参加している。措置入院や鑑定入院も受け入れており、また精神病早期介入活動にも力を入れており、富山県との協同事業としても取り組んでいる。特色ある検査・治療としては修正型電気けいれん療法（mECT）、クロザピンによる治療、睡眠ポリソムノグラフィー検査（PSG）などを行っている。連携研修施設はいずれも特色があり、富山県立中央病院（精神科救急・急性期病棟、身体合併症治療、リエゾン精神医学）、富山市民病院（包括型地域生活支援プログラム、難治性精神疾患治療）、谷野呉山病院（精神科救急、包括型地域生活支援プログラム等による退院・地域生活支援、依存症治療、児童思春期症例）、北陸病院（医療観察法指定入院医療機関、認知行動療法、睡眠専門外来）、田宮病院（精神科救急医療、多職種チーム医療）、駅南あずさ病院（児童・思春期症例、地域に開かれた精神科医療、各種関係機関との連携）、南富山中川病院（認知症）、富山県リハビリテーション病院・こども支援センター（児童・思春期症例）、小矢部大家病院（認知症、地域医療、チーム医療）、かみいち総合病院（総合病院精神科、身体合併症、リエゾン、認知症、地域精神医療、多職種チーム医療）から希望に応じて研修先を選択できる。いずれの研修先であっても共通の学習機会（富山県精神科医会学術講演会・北陸精神神経学会など）が得られる。このプログラムにより、3 年間の後期研修で精神科医としての基礎を築くことができる。
専門研修はどのようにおこなわれるのか	基幹施設における病棟診療はチーム制で行っており、3つの病棟チームのチーフは精神科専門医・指導医および精神保健指定医の資格を持つ教員が務める。専攻医は各チームに配属され、入院患者の主治医となり、毎週行われるチームカンファレンスや教授回診、症例検討会のほか、種々の場面でチーム医の指導や助言を受けながら診療に当たる。専攻医は基幹施設での研修中は 3 ヶ月または半年毎にチームをローテートし、ほぼすべての主要精神疾患の検査・診断・治療に関する基礎的な知識・経験を身につけることができる。教室内で行われる早期介入症例検討会、認知症症例検討会、精神病理勉強会に加え、県内外で行われる講演会や学会への参加を通じて、さらに幅広い知識を得ることができる。また基幹施設は臨床研究にも力を入れており、特に統合失調症を対象とした生物学的研究においては国際的にも先進的な研究を行っている。各研究グループのミーティングや関連学会への参加も推奨しており、リサーチマインドを持った精神科医の養成に力を入れている。実際に研究に携わり論文作成する場合は、臨床研究において十分な実績と経験のある指導医が直接指導に当たる。専攻医は、研修プログラムでの研修と並行して大学院博士課程へ進学することもできる。なお特色ある連携施設いずれにおいても、経験ある指導医の丁寧な指導のもと十分な経験を積むことができる。

専攻医の到達目標	修得すべき知識・技能・態度など	精神科専攻医研修マニュアルに示される通り。各年次毎の到達目標を示す。【1年目】基幹病院または連携病院で指導医と共に統合失調症、気分障害、器質性精神障害の患者等を受け持ち、面接の仕方、診断と治療計画、薬物療法及び精神療法の基本を学び、リエゾン精神医学を経験する。とくに面接によって情報を抽出し診断に結びつけるとともに、良好な治療関係を構築し維持することを学ぶ。精神療法の習得を目指し精神病理勉強会や認知行動療法などの勉強会に参加する。院内研究会や学会で発表・討論する。【2年目】基幹病院または連携病院で指導医の指導を受けつつ、自立して面接の仕方を深め、診断と治療計画の能力を充実させ、薬物療法の技法を向上させ、精神療法として認知行動療法と力動的な精神療法の基本的考え方と技法を学ぶ。精神科救急に従事し対応の仕方を学ぶ。神経症性障害および種々の依存症患者の診断・治療を経験する。引き続き精神療法の修練を行う。院内研究会や学会で発表・討論する。【3年目】指導医から自立して診療できるようにする。連携病院はより幅広い選択肢の中から専攻医の志向を考慮して選択する。認知行動療法や力動的な精神療法を上級者の指導の下に実践する。心理社会的療法、精神科リハビリテーション・地域精神医療等を学ぶ。児童・思春期精神障害およびパーソナリティ障害の診断・治療を経験する。外部の学会・研究会などで積極的に症例発表する。なお児童思春期精神障害については富山大学附属病院、谷野呉山病院、駅南あずさ病院、および富山県リハビリテーション病院・こども支援センターで十分な経験が得られる。アルコール・薬物依存症の症例は富山大学附属病院、富山市民病院、谷野呉山病院で経験することができる。
	各種カンファレンスなどによる知識・技能の習得	日本精神神経学会学術総会に参加し基本的な知識や技能を学び、また各施設において症例カンファレンスや抄読会、勉強会に参加し討論に参加する。各施設で行われているカンファレンスは別紙「週間・年間スケジュール」に示す通りである。またいずれの研修先であっても共通の学習機会（富山県精神科医会学術講演会・北陸精神神経学会など）がある。研修機関中に精神科領域において筆頭者として臨床研究の学会発表を1回以上行うこととする。また論文発表ならびに臨床研究への参画等を行うことが望ましい。
	学問的姿勢	専攻医は医学・医療の進歩に遅れることなく、常に研鑽自己学習することが求められる。すべての研修期間を通じて与えられた症例を院内の症例検討会で発表することを基本とし、その過程で過去の類似症例を文献的に調査するなどの姿勢を心がける。その中で特に興味ある症例については、地方会等での発表や学内誌などへの投稿を進める。特に基幹施設ではオンラインジャーナルや関連雑誌・図書が充実しており、精神科領域の主要な国内・英文雑誌にアクセス可能であるため、自己学習の環境が整っている。
	医師に必要なコアコンピテンシー、倫理性、社会性	研修期間を通じて、1) 患者関係の構築、2) チーム医療の実践、3) 安全管理、4) 症例プレゼンテーション技術、5) 医療における社会的・組織的・倫理的側面の理解、を到達目標とし、医師としてのコアコンピテンシーの習得を目指す。さらに精神科診断面接、精神療法、精神科薬物療法、リエゾンコンサルテーションといった精神科医特有のコンピテンシーの獲得を目指す。倫理性・社会性については基幹施設において他科の専攻医とともに研修会が実施される。またコンサルテーション・リエゾンを通して身体科との連携を持つことによって医師としての責任や社会性、倫理観などについても多くの先輩や他の医療スタッフからも学ぶ機会を得ることができる。

施設群による研修プログラムと地域医療についての考え方	年次毎の研修計画	1年目に基幹病院である富山大学附属病院をローテーションし、身体合併症症例、難治例、リエゾン症例、児童思春期症例を含む幅広い症例を経験することで精神科医としての基本的な知識、精神療法や薬物療法を主体とする治療手技、生物学的検査・心理検査などの検査手法を習得する。2～3年目には連携施設である総合病院精神科（富山県立中央病院、富山市民病院、かみいち総合病院）、児童思春期精神医療の公的センターである富山県リハビリテーション病院・こども支援センター、単科精神科病院（谷野呉山病院、北陸病院、田宮病院、駅南あずさ病院、南富山中川病院、小矢部大家病院）、および富山県リハビリテーション病院・こども支援センターから1年ずつローテーションし、急性期治療、司法精神医学、児童思春期症例、依存症、認知症なども幅広く経験する。また精神保健福祉法や社会資源についての知識と技術を深める。1-2年目を基幹病院で研修する、または1年目と3年目に基幹病院で研修することもできる。ローテーションの組み合わせは別紙「研修ローテーションパターン」に示す通りである。
	研修施設群と研修プログラム	各研修施設およびその特徴はプログラム概要の項目で記した通りである。各研修施設における研修プログラムは別紙「週間・年間スケジュール」に示す通りである。
	地域医療について	連携施設での研修中はいずれも地域医療・地域連携において十分な経験が得られる。包括型地域生活支援プログラム（ACT）を経験できる連携施設が2つあることも特徴である。基幹施設での研修中は非常勤として週に2回程度（一回半日）、地域医療を行う精神科医療機関や精神科に関わる公的施設（下記）のいずれかに赴き、基幹施設の指導医による指導の下で地域医療や福祉への理解を深める（いずれも富山県内）。 【総合病院】砺波総合病院・黒部市民病院・南砺市民病院・高岡市民病院・かみいち総合病院・厚生連滑川病院・国立病院機構富山病院・済生会富山病院・不二越病院・富山労災病院【単科精神科病院】有沢橋病院・いま泉病院・魚津緑が丘病院・小矢部大家病院・川田病院・呉陽病院・さくら病院・佐々木病院・柴田病院・常願寺病院・太閤山病院・福井病院・藤の木病院・ふるさと病院・松岡病院・三輪病院・矢後病院・グリーンヒルズ若草病院【その他】知的障害者相談センター・こころの健康センター・富山刑務所・社会福祉法人セーナー苑・社会福祉法人めひの野園
専門研修の評価	評価時期と評価方法として、3ヶ月ごとに、カリキュラムに基づいたプログラムの進行状況を専攻医と指導医が確認し、その後の研修方法を定め、研修プログラム管理委員会に提出する。研修目標の達成度を、当該研修施設の指導責任者と専攻医がそれぞれ6ヶ月ごとに評価し、フィードバックする。1年後に1年間のプログラムの進行状況並びに研修目標の達成度を指導責任者が確認し、次年度の研修計画を作成する。またその結果を統括責任者に提出する。その際の専攻医の研修実績および評価には研修記録簿／システムを用いる。	
修了判定	日本専門医機構が認定した精神科専門研修施設で、精神科専門研修指導医の下に、研修ガイドラインに則って3年以上の研修を行い、研修の結果どのようなことができるようになったかについて専攻医と研修指導医が評価する研修項目表による評価と、多職種による評価、経験症例数リストの提出を求め、研修プログラム統括責任者により受験資格が認められたことをもって修了したものとする。その際の修了判定基準は到達目標の達成ができているかどうかを評価することである。	
	専門研修プログラム管理委員会の業務	プログラム統括責任者、専門研修指導医、連携施設担当者、研修に関連する多職種（看護師、精神保健福祉士など）で構成し、専攻医およびプログラム全般の管理とプログラムの継続的改良をおこなう役割を担う。
	専攻医の就業環境	各施設の労務管理基準に準拠する。
	専門研修プログラムの改善	基幹病院の統括責任者と連携施設の指導責任者による委員会にて定期的にプログラム内容について討議し、継続的な改良を加える。
	専攻医の採用と修了	①日本国の医師免許を有すること、②初期研修を修了していることの基準を満たす応募者に対して、基幹施設である富山大学附属病院のプログラム統括責任者と医局長が履歴書記載内容と面接結果に基づき厳正な審査を行い、採用の適否を判断する。修了については「修了判定」の項目に記した通りである。

専門研修管理委員会	研修の休止・中断、プログラム移動、プログラム外研修の条件	日本専門医機構による「専門医制度新整備指針（第二版）」Ⅲ-1-④記載の特定の理由のために専門研修が困難な場合は、申請により、専門研修を中断することができる。6ヶ月までの中断であれば、残りの期間に必要な症例等を埋め合わせることで、研修期間の延長を要しない。また、6ヶ月以上の中断の後、研修に復帰した場合でも、中断前の研修実績は、引き続き有効とされる。他のプログラムへ移動しなければならない特別な事情が生じた場合は、精神科専門医制度委員会に申し出ることとする。精神科専門医制度委員会で事情が承認された場合は、他のプログラムへの移動が出来るものとする。また、移動前の研修実績は、引き続き有効とされる。
	研修に対するサイトビジット（訪問調査）	研修施設は日本精神神経学会によるサイトビジットを受けることや調査に応じることが義務付けられており、研修プログラム統括責任者、研修指導責任者、研修指導医の一部、および専攻医すべてがサイトビジットに対応する。そこでは専門研修プログラムに合致しているか、専門研修プログラム申請書の内容に合致しているかが審査される。
専門研修指導医 最大で10名までにしてください。 主な情報として医師名、所属、役職を記述してください。	高橋 努（国立大学法人富山大学附属病院・神経精神科副科長）、野原 茂（富山県立中央病院・精神科部長、長谷川雄介（富山市民病院・精神科部長）、榎戸芙佐子（谷野呉山病院・副院長）、白石 潤（独立行政法人国立病院機構北陸病院・精神科診療部長）、稲井徳栄（医療法人崇徳会田宮病院・副院長、診療部長）、田仲耕大（医療法人社団あずさ会駅南あずさ病院・副院長）、宮津健次（医療法人社団功連会南富山中川病院・院長）、森 昭憲（富山県リハビリテーション病院・こども支援センター・精神科部長）、岡部彰人（かみいち総合病院・精神科部長）ほか	
Subspecialty領域との連続性	サブスペシャリティ領域の専門医については、既存の学会認定医・専門医や、日本専門医機構によって今後整備される予定の専門医の資格取得を目指すこととなる。子どものこころ専門医や一般病棟連携（リエゾン）精神医学専門医などが対象となる。基幹施設である富山大学は一般病棟連携精神医学専門医（略称：精神科リエゾン専門医）研修施設（総合病院精神医学会）に認定されており、また附属病院こどものこころと発達診療学講座との連携により、これらのサブスペシャリティ領域について十分な経験を積むことができる。リエゾン精神医学領域については連携施設である富山県立中央病院や富山市民病院、子どものこころ領域については連携施設である富山県リハビリテーション病院・こども支援センター、谷野呉山病院、駅南あずさ病院でさらに経験を蓄積できる。	